

「絵本の中の子どもの発達」

10H2053 高田陽香

1. 問題

本研究の目的は、絵本の中で子どもの発達がどのように描かれているのかを明らかにすることである。日本の絵本の発達像を相対化するため、欧米の絵本との比較を行いながら、絵本の内容を分析する。

発達研究は様々な角度から行われ、これまでも多くの研究がなされてきている。例えば知能の発達基準を定め、知能指数から子どもの発達を見ようとするものや、発達には順序があって段階に分けられているという発達段階理論などがある。伝統的な発達研究では文化が軽視されていたが、近年では、子どもの発達を文化との関わりから明らかにしようとする研究が盛んになってきている。社会・文化・歴史的な状況が子どもの発達にどのような影響を及ぼすのかが注目されはじめている。

絵本を文化の集合体とすると、絵本が子どもの心や発達に一方的に影響を及ぼすだけではなく、社会が絵本に影響を与え、相互に影響を及ぼし合っていく。絵本をみることはそれぞれの文化で異なる子どもの発達観を明らかにすることにつながると考えられる。

2. 方法

今回の研究では、発達を、「葛藤を乗り越えること」と定義した。そして「子どもの心を理解するための絵本データベース」の大主題の中から「自我・自己形成」を選択し、そのうちの「死」と「不安になる」の二つの主題を選択した。この二つの主題を選択した理由は、日常で起こる葛藤だけでなく非日常で起こる葛藤も重大であると考えたためである。子どもが体験することが少ない非日常に近い葛藤場面として「死」という主題を選択し、日常に近い葛藤場面として「不安になる」という主題を選択した。

入手不可能であった絵本と、実際には死の場面が描かれていなかった絵本を除き、最終的に計 64 件の絵本を選択した。そして、予備調査をもとに基準となる分析項目を設定しコーディングシートを作成した（付録参照）。

「死」が主題の絵本に関しては統計的手法を用いた量的内容分析と、質的分析の 2 つの分析を行った。「不安になる」が主題の絵本では、主に質的分析を行った。統計的手法を用いた分析ではフィッシャーの正確検定を用い、質的分析に関しては、似たような内容でカテゴリー分けを行い、日本と欧米での発達の描かれ方の特徴を見出すことを試みた。

3. 結果

内容分析を行った結果、日本と欧米の発達の描かれ方には違いがあることが明らかになった。

3. 1. 死が主題の絵本

「死」が主題の絵本では、「主人公の性別」「死ぬ人」「死の原因」「描くフェーズ」「拒絶の有無」「悲しみの大きさ」の6つの項目でフィッシャーの正確検定を行った。その結果「描くフェーズ」「拒絶の有無」「悲しみの大きさ」の3つの項目で内容の文化差が見られた。

表 1 死が描かれるフェーズ(%)

国	描かれるフェーズ		計	n
	死前	死後		
日本	80	20	100.0	15
欧米	23.5	76.5	100.0	17
計	51.8	48.3	100.0	32

フィッシャーの正確検定：p = 0.0038

まず、死を描くフェーズの違いについてである。日本は死ぬ前を中心に描いているのに対し、欧米では死んだ後を中心に描いていた。欧米の絵本に関しては物語が始まってすぐに死を描くものや、すでに死んでいる場面から始まるものが多く見られ、死んだ後の子どもの様子や心情を描いていた。

次は拒絶の有無についてである。日本より欧米の絵本の方が拒絶を描いていたことが分かった。死を受け入れないという行為の具体例を紹介する。『おばあちゃんがいなくなっても…』という絵本では、少女が大好きだった祖母が死んでしまう。家族から祖母が死んだことを聞かされるが、信じようとはせず「おばあちゃんはまた戻ってくるはずだ」と思い、死を拒絶する場面が描かれていた。

最後は悲しみの大きさについてである。悲しみの大きさについては、絵本の中で悲しんでいる場面が描かれているページ数で測り、平均値を基準とし悲しみの大小を決定した。全体の平均値が3ページであったので、3ページ以下は悲しみの大きさが小さく、3ページを超えるものは悲しみが大きいとした。結果、日本の絵本は欧米の絵本よりも悲しみを描かないということが分かった。

3. 2. 不安が主題の絵本

次は「不安になる」が主題の絵本の結果である。「不安の原因」「解決の仕方」「助ける人・モノ」の3つの項目それぞれで似たような内容でカテゴリー分けを行った。

不安の原因について、日本は「コンプレックス」「孤独を感じる」「自己への問いかけ」「はぐれる」の4種類、欧米では「コンプレックス」「孤独を感じる」「自己への問いかけ」「初めてのことへの不安」「先のことへの不安」の5種類が見いだされた。相違点として、日本だけに「一人になる」というパターンが見られ、欧米にのみ「初めてのことへの不安」と「先のことへの不安」という2種類のパターンが見られた。

不安になったときの解決の仕方について、日本では「自分の力で解決する」と「何もしなくても困っていたら解決する」という2種類のパターンが見られた。欧米では3種類の

パターンに分けることができ、日本で見られた 2 種類のパターンの他に「周りが助けてくれるが最後は自分で解決する」というパターンが見られた。

最後に助ける人・モノの違いについてである。主人公の解決の手助けをしていたのは物理的なモノではなく意思を持つ人・モノであった。そして、日本の絵本の助ける人・モノについては、自分(主人公)、母、知らない人、意思を持つぬいぐるみの 4 種類であったのに対し、欧米では、友達、ペット、祖母、家族が加わり計 8 種類であった。日本よりも欧米の方が助けてくれる人・モノのバリエーションが多いことが分かった。

4. 考察

日本の絵本における子どもの発達の様子は、「葛藤を乗り越える」という形の発達がみえづらいものであった。欧米でみられた「発達像」と照らし合わせるならば、日本で描かれていたものは果たして発達ではないのだろうか。初めに立てた問いとは逆に、欧米の発達像を相対化するために日本の発達について考察をしていく。

死が物語の初めから描かれる欧米の絵本では、喪失を体験した後の子どもについて描こうとしている。それでは、日本では何を描こうとしているのか。死ぬ前の記述を見ると、死んだ人との出来事が描かれていた。それは、「死」という出来事自体は重要視するものではなく、死んでいく「誰か」と「主人公」、そして、それらを結ぶ絆のようなものを重要視しているのではないだろうか。つまり、欧米では「死」という出来事は自己を成長させる一つの手段であったのに対し、日本は死んでいく「誰か」と「自分」とのつながりをより強化させていく手段であるといえる。

しかし、ここで考える必要があるのは発達についてである。今回の研究で考えていた葛藤を乗り越えるという発達とは異なったものが存在していると考えられる。

欧米の発達とは、死という出来事の中で起こる拒絶や悲しみなど個々で現れてくる葛藤を乗り越えていく営みである。それに対し、日本は死を大きな塊として捉え、死という出来事を自分の中に取り入れていくような発達といえるのではないだろうか。決して死を克服していないわけではないが、欧米のように葛藤を乗り越えているわけではないとすると、それは死の受容という言葉で説明できる。死んだ大切な誰かとの関係性を再確認したり強化したりすることで、自然と自分の中で死の受容へと変わっていつているのではないだろうか。そして、その死という出来事を経験したということの積み重ねが日本における発達であると考えられる。

次は「不安になる」の絵本の考察である。「不安になる」が主題の絵本からは、自分だけで乗り越えることだけが発達ではないということが示唆された。日本の絵本を見ると、誰がどのようにして助けてくれたのかについて強く描いているように思える。どのようにして主人公が解決していったという話よりも、誰かに助けてもらった話として捉える必要があるのではないか。そして、このことが示唆することは、「死」の絵本と同様に不安という葛藤を乗り越えるのではなく、不安という葛藤があったという経験を物語っていると考えられる。

「死」が主題の絵本と「不安になる」が主題の絵本の考察から、どちらにも共通して言えることは、欧米は能動的な発達であるのに対し、日本は受動的な発達が見られたということである。乗り越えることを発達だとすると、欧米で描かれていた発達が当てはまる。しかし、日本では考えていた発達が当てはまらなかった。そうであるからといって、日本では発達が描かれないとは言い切ってしまうてよいのだろうか。描かれないのではなく、日本には欧米とは異なった独自の発達が描かれているのであろう。そこで欧米とは異なった日本の発達モデルを提示する。それは、日本で描かれる発達は乗り越えていくことではなく死や不安を受け止めていくこと、また、それらの経験を積み重ねていくことが日本の発達だといえる。欧米のように目に見える形ではないが、経験したことが蓄積され子ども的人格形成や今後の行動に反映されていくというような発達なのではないだろうか。

付録. コーディングシート

コーディングシート(死を題材にした絵本)

- ①主人公の性別
 - 1. 女 2. 男
- ②死ぬ人
 - 1. 主人公 2. ペット 3. 家族 4. 友達 5. その他
- ③描くフェーズ
 - 1. 死前 2. 死後
- ④死の原因
 - 1. 寿命 2. 病気 3. 事故 4. 他殺 5. 戦争 6. 不明
- ⑤拒絶
 - 1. あり 2. なし
- ⑥死の受け入れ方
- ⑦悲しみの大きさ
 - 1. 大 2. 小
- ⑧悲しみからの立ち直りかた
- ⑨助ける人・モノ

コーディングシート(不安を題材にした絵本)

- ①主人公の性別
 - 1. 女 2. 男 3. 男女
- ②不安の原因
- ③乗り越え方
- ④助ける人・モノ